

令和2年度研究集録の刊行に寄せて

岩手県高等学校教育研究会特別支援教育部会長

(岩手県立気仙光陵支援学校長)

小澤 千殖

令和2年度はそれまでは思いもよらなかった、新型コロナウイルス感染症対応に迫われ、各学校とも厳しい状況下での教育活動を余儀なくされた一年間でした。そしてこの高教研特別支援教育部会の活動につきましても様々な影響がありました。その様な厳しい状況下でも各校が感染症対策や工夫を行いながら研究や研修活動を行われましたことに、まずもって感謝を申し上げます。

さて、新特別支援学校学習指導要領は、今年度より小学部が本格実施となり、令和3年4月1日より中学部、令和4年4月1日より高等部（年次進行）と順次全面実施となっていきます。各校におかれましては、新学習指導要領に基づいた教育課程編成がいよいよ本番を迎えることとなります。

特別支援学校では、これまでも地域との連携や外部人材の登用、自立と社会参加に向けた産業現場等における実習など、社会と密接に関わる学習活動や社会資源を活用した教育を展開してきました。今回の学習指導要領のテーマである「社会に開かれた教育課程」という考え方は、特別支援学校に学ぶ児童生徒が学校卒業後に社会生活を送る上で重要な基盤となる、自らが主権者として社会に参画し、消費者として社会生活を送ることを意識できるような資質や能力を育み、未来の担い手として社会へ送り出すことを求めています。

児童生徒がこのような資質・能力を身につけるために、どのような内容を学習するのかを教育課程において明確にしなが、より社会との連携及び協働により実現を図っていく姿勢が学校に求められてきます。

私たちは更に専門性の向上を図り、特別支援教育を充実させ、自立と社会参加に向けた教育の一層の推進に向けて、より専門的な知識や技能を高めて行く必要があります。

本研究収録は48巻となり、特殊教育の時代も含め、これまで諸先輩方が積み重ねてこられた岩手の特別支援教育実践の歴史を継承していく貴重な資料ともなっています。

気仙光陵支援学校が、岩手県高等学校教育研究会特別支援教育部会の事務局を担当させていただき今年度は3年目の最終年となりました。本会の運営にご協力をいただきましたことに感謝を申し上げますと共に、本会の事業が各校における実践や研究推進の一助となることを願い、研究集録刊行のご挨拶とさせていただきます。